



TITLE:

内外の天文諸家に訴ふ

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 内外の天文諸家に訴ふ. 天界 1936, 16(181): 241-241

ISSUE DATE:

1936-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167223>

RIGHT:

内外の天文諸家に訴ふ

(花山急報 204)

天文學が人類文化と共に生れ、東西數千年の傳統と共に、精神界及び自然界の眞理探究と哲學指導の實をあげて來つゝあつたことは歴史上著しい事實であるが、はからずも Isaac Newton の出現により、天文學が極めて高度に數理化すると共に、急激に社會民衆により遠ざかり、唯少數の専門家がひそかにその學を楽しみ、もてあそぶ傾向に陥りつゝあることは人類文化の進展上甚だ遺憾に堪へない。

元來天文學は高尚にして超越的な宇宙觀乃至人生觀の指導的使命を有するのみならず、他方に於いては時間・空間の徹底的な原理を定め、これを實際社會生活に應用する外、なほ多くの緊急問題を人生のために負擔しつゝあるべき筈である。然るに、前述の如く、現代の天文學は徒らに象牙の塔に蟄居して、眼前に横はる多くの實際問題を見逃がさんとする傾向を否み難い。例へば10年前より學術界を衝動しつゝある宇宙線の本體に關する究明は Hale, Anderson 等の絶叫を待つまでもなく、當然天文家の責任と見るべきものである。然るに天文家がこれを熱心に取上げない間に、宇宙線は専ら物理學者によつて研究が進められつゝあるが、而もなほ今日の宇宙線が太陽との關係如何に於いて甚だ不徹底なところに終始してゐるのは、全く天文學者が研究に關與せざるによる。更に又最近學俗界にセンセーションを起しつゝある無線電波の異變についても、これ全く太陽活動の急激なる變動によること甚だ明瞭であるに關らず、これも亦研究は天文家によらないで、電氣學者によつて進められつゝあるがため、甚だ徹底を缺く憾みが多い。その他、太陽の熱源とその應用に關する研究所が、全世界に殆んど見當らざる事實、及び大小無數の宇宙的災害對策の根本が太陽研究より出發すべきものたることが忘れられてゐる如き、何れも皆天文家の實際社會生活に無關心の致すところである。

以上の諸點に就いて全世界の各方面の人士に深刻なる反省を促すものである。

(山本一清)